

第1回市教研「杉山 一成 顧問校長代表 あいさつ」より

先日、5月26日（水）サーラホールで第1回浜松市教育研究会音楽科研究部研修会が行われました。研修会に先立ち、顧問校長代表の杉山一成校長先生より挨拶がありました。その中で、主に「教師の使命」と「音楽科教育の課題」の2点について話がありました。

始めに「教師の使命」とは「今日の幸せ、未来の幸せに対する責任が教師の使命」「精一杯取り組むことで我々教師は充実感を日々感じることに」「やらされる研修ではなく、やってみたい研修であるために、教師一人一人の意見が上がってこなければならないこと」といった話がありました。

また「音楽科教育の課題」については「音楽を学ぶ意味とは何か？」「指導方法を絶えず改善していく必要性」「コロナ禍の中での授業・諸行事・部活動・研究授業のあり方について考えていかなければならないこと」といった話がありました。

コロナが収束後を視野に入れながら、教師は「主体的・対話的・価値ある深い学びに繋がるよう絶えず研修と修養に励もう」と決意を新たにしました。

「鈴木 絵美子 指導主事 目標と指導と評価の一体化について」

浜松市教育委員会 鈴木 絵美子指導主事より新学習指導要領について、目標と指導と評価の一体化についてのお話をいただきました。

新学習指導要領では、各教科等の目標内容が再整理され、「何ができるようになるか」を明確にした育成すべき3つの資質・能力が示されました。新しく示された「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力が育成していけるような授業を展開していけるよう、今後も音楽科研究部や自校の研修を積むことで授業改善に積極的に取り組んでいきたいと思っております。

中学校では、本年度から新学習指導要領による評価に切り替わります。今回の講話の中では、それぞれの観点の評価の考え方や仕方についてお話をしていただきました。その中でも、評価の計画を立てることの重要性を強く感じました。児童生徒の学習状況を記録に残す場面を精選し、かつ適切な評価を行えるよう、授業改善を進めていく必要があります。適切な評価ができるよう、各自で自校に戻り研修を重ねていきます。



サーラ音楽ホールについて 村木啓純館長より

会場でもあった「サーラ音楽ホール（正式名称：浜松市市民音楽ホール）」について、館長の村木さんより説明をいただき、その後、内覧しました。

地域の施設として、市民の皆さんが発信する場となるように、施設の設備を整え、料金の設定がされているそうです。また浜松市内では、アクトシティ浜松大ホールに次ぐ客席数（約1400席）、駐車場は、バス10台の駐車スペースを含む約450台分があるそうです。



実際に館内を回ってみますと、利用者が使いやすいように考えられた導線で、十分な広さをもった多目的室が2つありました。残念ながら、中止となった浜松市音楽科研究発表会でも、5部会と7部会が、こちらの新しいホールを利用して開催する計画でした。今後、私たちに親しみのあるホールとなっていくことと感じました。